

新庁舎特別号

- 〒183-8703 (個別郵便番号) 府中市宮西町2の24
- 代表電話 042-364-4111
- 直通電話 042-335-4129
- F A X 042-366-7752
- ホームページ <http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>
- メールアドレス chousya01@city.fuchu.tokyo.jp



新庁舎の基本設計が完了しました

このたび、新庁舎の建物の配置や構造、各階の基本的なレイアウトなどを定める基本設計が完了しました。本号では、基本設計の概要についてお知らせします。

今後も引き続き、「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」の実現を目指し、より詳細な検討を行う実施設計を進めていきます。

問合せは、政策課庁舎建設担当(335・4129)へ。



外観イメージパース(府中街道側より)

新庁舎のデザインコンセプト

にぎわいをつなぐ現代の宿場町

けやき並木に象徴される自然の美しさ、大國魂神社などの歴史的資産、市民の活気といった府中の魅力を最大化する庁舎を目指します。

府中宿をはじめとしたかつての宿場町は、まちをつなぐ街道沿いに存在し、旅籠、商店、茶屋などが軒を連ね、常に人々が行き交い、にぎわいにあふれている場所で、旅の休息地であり、出発点でもありました。

府中市庁舎もまた府中駅と府中本町駅のにぎわいをつなぐ場所にあります。このような立地を生かし、用がなくても立ち寄れる、常に人の活気にあふれた「現代の宿場町」のような庁舎をコンセプトとします。

●府中宿を受け継ぐ軒の連なり

かつての宿場町の軒が連続する印象的な風景を継承します。建物形状を周辺のまち並みと呼応するように適度に分節し、重ね合わせることで、テラスや連続する軒下空間をつくります。軒裏は多摩産の木材で仕上げることによって、樹木と親和性の高い温もりのある質感とし、店先で休憩したり、雨宿りをしていた宿場町の風景を再現します。

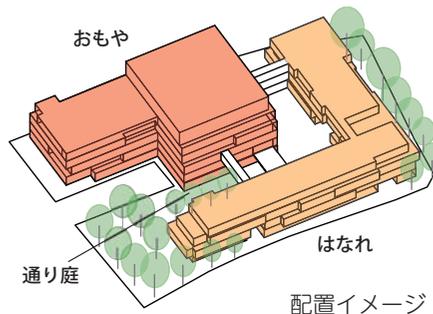


宿場町の風景



木材で仕上げた軒の連なり

●まち並みと呼応する「おもや」と「はなれ」



配置イメージ

周辺環境へ配慮し、低層としながらも最大限の執務面積を1期工事の「おもや」で確保し、基本的な庁舎機能を賄うことができる計画とします。

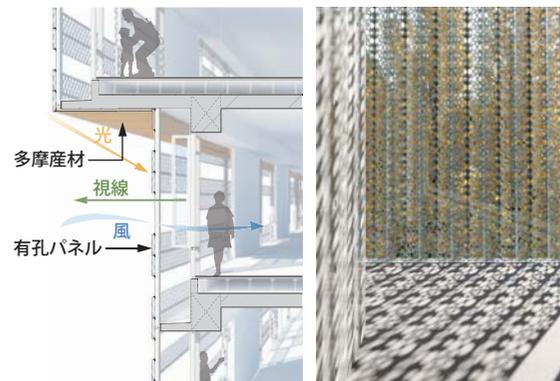
庁舎機能移転後、図書館などが入る「はなれ」を建設します。「おもや」と「はなれ」は、市民に開かれた外部空間である「通り庭」により緩やかにつながります。

●外と内をやわらかくつなぐ有孔パネル

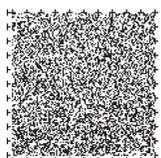
格子戸や看板が連なる様子もまた宿場町の印象的な風景の一つです。格子戸は、内外を隔てながらも、通風や採光、人の気配を伝える役割を担っていました。

外装材として使用する有孔パネルは、さながら現代の格子戸のように風や光、視線をやわらかく透過し、建物内には木漏れ日のような光が入ってきます。

場所によって開口率や密度、貼り方を変えることで、環境負荷低減にも効果的であり、プライバシーへの配慮を行うことも可能です。



有孔パネルのイメージ(室内より)



基本設計の

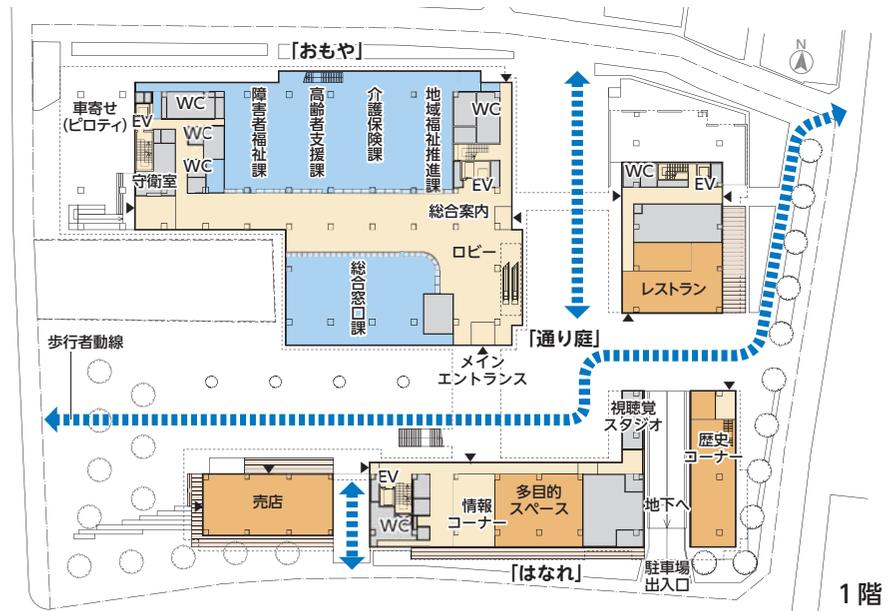
基本方針1 市民に開かれ、人々の多彩な活動が生まれる庁舎

- ・「おもや」の低層階に来庁者の利用が多い部署を集約配置し、サービスを提供しやすい施設とします。「はなれ」の低層階には多彩な市民活動や市民協働を支える多目的スペース・ラウンジを計画します。
- ・「通り庭」に面して庁舎機能や市民協働の場を設け、市役所に訪れた人はもとより「通り庭」を散歩道にする人など、誰もが気軽に訪れやすく、多様な活動が生まれる開かれた庁舎を計画します。

◆各階の主な配置◆

	おもや	はなれ
6階	機械室	—
5階	議会エリア、傍聴・展望ロビー	展望テラス(屋上)
4階	市長室、副市長室、政策課、財政課 総務管理課、職員課、財産活用課 建築施設課	防災危機管理課 選挙管理委員会事務局 監査事務局、災害対策本部室
3階	契約課、住宅勤労課、経済観光課 環境政策課、地域安全対策課 ごみ減量推進課、子育て支援課 保育支援課、児童青少年課、総務課 学務保健課、指導室	文化振興課、ふるさと文化財課 生涯学習スポーツ課、管理課 計画課、土木課、公園緑地課 下水道課、建築指導課、地区整備課
2階	広報課、保険年金課、市民税課 資産税課、納税課、生活援護課 出納課	広報課、市民活動支援課 市民協働ラウンジ、図書館
1階	総合窓口課、地域福祉推進課 高齢者支援課、介護保険課 障害者福祉課	情報コーナー、多目的スペース 歴史コーナー、視聴覚スタジオ 売店、レストラン
地下1階	地下駐車場、バイク駐車場	

※記載されている部署名は、現時点における想定を参考に記載したものです。



基本方針2 府中の魅力を象徴する、まち、自然と一体になった庁舎

- ・庁舎の主たる機能を担う「おもや」と、庁舎機能を補完し、市民協働を支える「はなれ」、そして市民に開かれた「通り庭」で構成します。これら3つの空間が絡み合い、補い合うことで、市役所としての機能性を十分に発揮しながらも市民に開かれ、自然と一体になったこれからの時代を象徴する庁舎となります。
- ・「通り庭」は市民に開かれた府中らしい多彩な活動が繰り広げられる場です。大國魂神社、京王線府中駅とJR府中本町駅の周辺のにぎわいをつなぐ役目を果たす、市役所のシンボル空間となります。

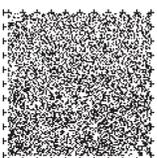
●大國魂神社と連続する仕上げ

「通り庭」は大國魂神社の参道を引き込むようにタイル貼りを基調とした仕上げとします。また、けやき並木から大國魂神社の杜へと連なる緑を敷地内まで連続させることにより、まちの自然と一体になった広場としています。

●まちとつながる照明計画

「通り庭」には、軒の連なりに沿うように照明を配置し、夜間でも街路のように安心して通行することができるようにします。

また、敷地の中からほんのりと光が漏れ出し、まちの明かりと連続する計画です。



府中駅と府中本町駅をつなぐ庁舎

●外観デザインの考え方

建物を低層に抑え、外壁面を分節することで周辺のまち並みのスケールと調和した計画とします。

また、建物の随所に軒下空間や通り抜けができる場所を設けて、市民の憩いの場や生活動線をつくります。

日射や視線を制御する役割を担う有孔パネルで建物全体を包みます。有孔パネルの開口率を場所ごとに調整することで、日射負荷の低減や近隣建物へのプライバシーに配慮した計画とします。

●外装材料

外装材料には、有孔パネルという「高耐食溶融亜鉛めっき鋼板」に孔(あな)をあけた材料を使用します。この有孔パネルは、周辺の景色を映し込み、大國魂神社の緑とも調和する素材で、室内には木漏れ日のような柔らかな光を透過します。また、耐久性に優れ、長寿命かつメンテナンスフリーで、環境にも配慮した材料です。



鳥かんイメージパース(敷地南西側より)



内観イメージパース(おもや3階通路を西側より)

基本方針4 時代やニーズの変化に対応できるフレキシブルな庁舎

- ・庁舎内へのスムーズな動線、分かりやすいサイン計画、充実したトイレ計画により、誰もが安心して利用できる施設計画とします。
- ・高度情報化に対応できる庁舎とし、事務の効率化を図り、質の高い市民サービスを提供します。
- ・執務空間は大きく広がるフレキシブルな空間とします。機能性と経済性のバランスを取りながら、多様なニーズに対応できる可変性と更新性に優れた計画とします。

●誰もが安心して利用できる施設計画

誰もが利用しやすく快適な庁舎とするため、「府中市ユニバーサルデザイン5つの視点」に基づいたユニバーサルデザインの実現を目指します。

●ゆとりのある通路幅

敷地内の通路や庁舎内の廊下は極力段差のない構造とし、また、歩行者と車椅子利用者に配慮したゆとりのある幅員を確保します。

●多目的トイレ

各階に誰もが利用できる多目的トイレを設置します。

また、フロアごとの利用者層を考慮し、多様な要求に対応できるトイレ計画とします。1階には重度障害者用トイレなどを設置します。



多目的トイレイメージ

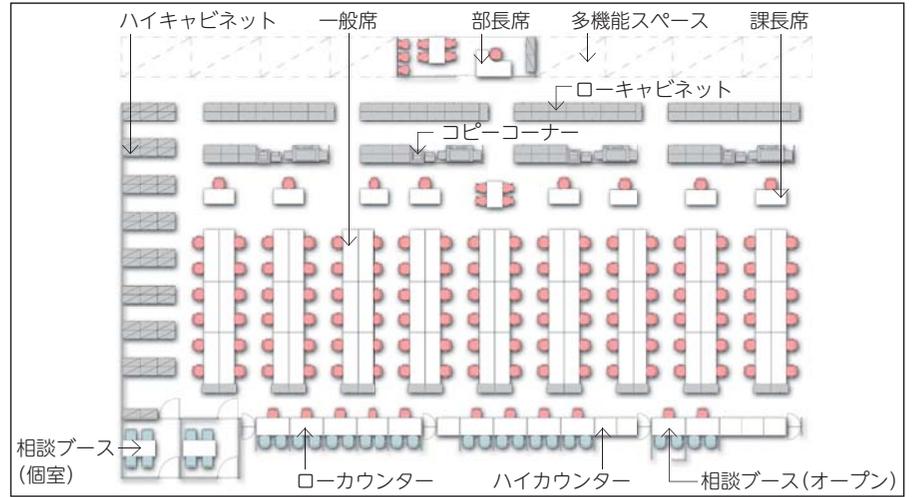
●サイン計画の3つの考え方

- ・誰にとっても分かりやすい(障害者、高齢者、外国人に分かりやすく)
- ・建物とランドスケープとの融合(建物本体と通り庭の構成を生かす)
- ・可変性・更新性(時代やニーズの変化に対応できる可変性・更新性)

●ユニバーサルレイアウトの活用

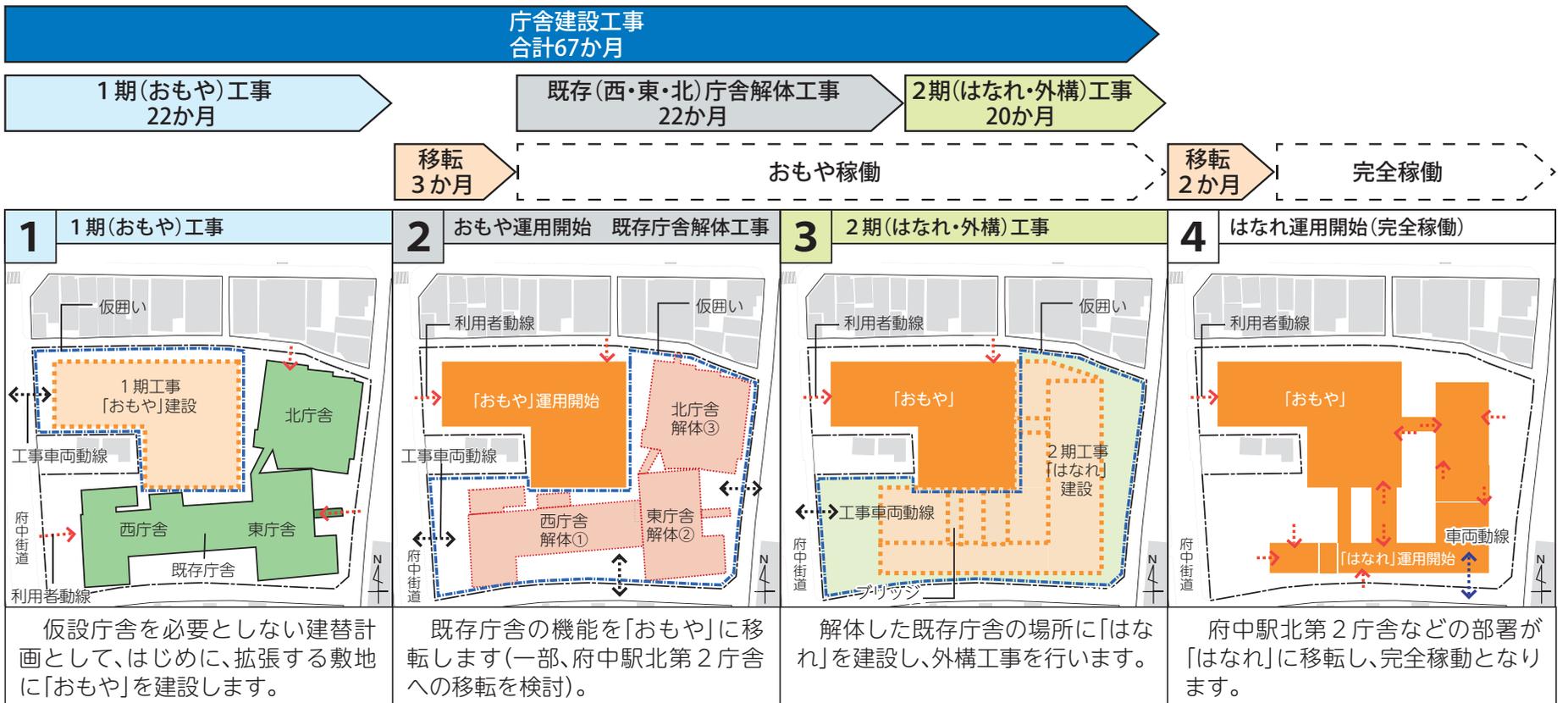
将来にわたり業務量の増減や組織改正などにより、部署の構成が変わることがあるため、職員が使用するデスクなどを同じものにし、各課のレイアウトを統一することで、柔軟に対応できるようにします。

◆執務室のスタンダードレイアウト◆



全体工程計画

基本設計において具体的な検討を行うなかで、工期や移転に係る期間を見直し、庁舎建設工事全体で67か月を要する計画としています。今回定めた基本設計をもとに実施設計を進め、実施設計完了後には、工事事業者の選定など必要な手続きを経て、建設工事に着工します。具体的な着工時期については、詳細が固まり次第、改めて広報などでお知らせします。



計画概要

計画地	府中市宮西町2丁目24番地(現在地)
敷地面積	約11,900m ²
構造種別	免震構造(地下1階柱頭免震)・鉄筋コンクリート造
基礎形式	杭基礎
建築面積	約6,600m ² (計画暫定面積)
延床面積	約33,500m ² (計画暫定面積)
階数	「おもや」 地下1階 地上6階、「はなれ」 地下1階 地上4階
高さ	「おもや」 約30m、「はなれ」 約20m
駐車場等	地下駐車場 約180台、駐輪場(地上) 約700台

概算工事費

基本設計において建物の具体的な配置や構造などが明らかになったことから、次のとおり建設工事費と解体工事費を見直しました。具体的には、上記の全体工程計画の見直しによる影響や、地盤調査の結果による杭基礎への変更に加え、建設資材や労務単価の上昇などを考慮した内容としています。

なお、財源については、基金と起債を活用することを基本として財政負担を平準化することにより、単年度の影響を軽減し、ほかの事業に影響を与えないよう取組んでいきます。

建設工事費	158.8億円
解体工事費	10.0億円

